



良い学びを求めて

教務部長 鶴田 貞子

二年生はいよいよ卒業で、進学・就職へと進みます。二年間本当に頑張りました。一年生は、基礎看護実習も後半になり、得体のしれない不安も無くなっている頃だと思えます。

さて、私は教員になって 20 年になります。今までたくさんの生徒と出会い、いろいろなことを学びました。でも、教育は「これで良い」という正解が無く、いつでも今でも悩みっぱなしです。

ある本に、教育について引用していた文章があったので紹介します。(古くから語られている内容も含んでいるようです)

「私が飢えた女性に魚を与えれば、彼女は空腹でなくなる。私が彼女に魚の釣り方を教えれば、彼女が飢えることはもうないだろう。しかし、私が彼女に自分で魚の釣り方を学ぶような状況をつくってあげれば、彼女は飢えないだろうし、「自信と自尊」を高めることができるだろう」(ウィルシュッツ)

はて、私は何を教えてきたのだろうか？ いったい「教育的」であったらどうか？ こんな風に時々振り返り、考え、修正しながらこれからもこの仕事に携わっていくことでしょう。

卒業する二年生も、もう一年准看護学科で学ぶ一年生も、一人ひとりが「魚の釣り方」を自ら学ぶ機会が得られますように…お互い頑張りましょう。



戴帽式を終えて

66 回生 1 年 2 組 生徒

入学してから七ヶ月が経ち、無事に戴帽式を迎える事が出来た事を大変うれしく思います。

戴帽式では、いただいた帽子の重さに看護師としての心構えや責任感を自覚し、決意を新たにすることが出来ました。私はこの戴帽式で“暗闇は患者さんの心、そこに灯す光は看護師である”という言葉が強く印象に残りました。私もナイチンゲールのように、患者さんの気持ちに寄り添い、どのような人にも分け隔てなく平等な看護を行い、「あなたがいてくれて良かった」と患者さんに思ってもらえるような看護師を目指します。今後は益々勉強も難しくなり、実習も始まる為、乗り越えていなければならない事がたくさんあると思います。しかし、どのような時も笑顔を絶やさず前向きに、周りの人への感謝の気持ちを忘れず、同じ志を持つ仲間と助け合いながら、一つ一つ努力を積み重ねていきたいです。この戴帽式は、私にとって一生忘れる事のできない感動的な一日となりました。



グループスタディを終えて

65 回生 2 年 2 組 生徒

9 月 26 日、二学年のグループスタディが行われました。今回の実習を経て、自分の持つ看護観は一年前とは変わり、より具体的なものになったと感じます。

グループの話し合いは、メンバーのレポートで共感した事を自身の経験や学びを交えながら進められました。メンバーそれぞれから、どのような経験をし、何を感じたのか、そして看護する上で何が大切だと思ったのかが聞かれました。全体の発表では、自分の看護観やグループで出た意見との共通点を見出しつつ、それぞれのグループの看護観を知り、更に考えを深められました。

メンバーの意見や実習で経験した事を聞き、自分の看護に対する考えを見直す事が出来ました。自分とは違う価値観に触れ、自身の看護観が感化される良い機会となりました。



グループスタディを終えて

66回生1年3組 生徒



私のグループでは、「寄り添う看護の心」をテーマに討議しました。初めのうちは、司会者という立場でありながらメンバーの意見をうまく引き出せず、度々沈黙してしまうこともありましたが、徐々にメンバーが自発的に発言してくれるようになり、皆が発言しやすい環境になっていきました。

討議していく中で看護師、患者、家族の三つの視点から「寄り添う看護の心」について考えるようになり、実際に自分が患者の家族の立場だった時の心境、自分が患者だった時の心境を出し合い、互いに影響し合うことができたと思います。

最後の模造紙にまとめる段階になると固かった表情も緩み一丸となって作業でき、普段あまり話さない人との良いコミュニケーションの場になっていました。

このグループワークを通して自分の看護に対する考えを深め、協調性を養うという目的を達成することが出来ました。



実習を終えて

65回生2年3組 生徒

五月から始まった二年生の実習もようやく終わり、安堵感・充実感でいっぱいです。最初の頃は、約半年続く実習を乗り越える事ができるのか不安ばかりが大きくなっていました。同じ実習先へ行く学生同士で「頑張ろう!」と声を掛け合いながら、1日1日乗り越えていた事を思い出します。1クールずつ実習が終わっていくにつれて、基礎実習で学んだ事にプラスされていく観察力・コミュニケーション力を次のクールにつなげていく事が出来るようになりました。また、他のクラスの方との関わりもある為、初めて話す方々も多く学生同士の輪を広げる場でもありました。患者の立場になり、何を望んでいるのか考える事や、何が 필요한のか観察する事、何を思っているのか傾聴する事が大切だと学びました。

この学びを、実践で活かしていける看護師を目指して行きたいと思います。



9月23日に合同避難訓練がありました。毛布を使用し、負傷者の搬送を体験しました。チームで呼吸を合わせて、搬送することの難しさを学びました。自分の命を守る為にも、仲間の命を守る為にもしっかり備えていきましょう。



〈編集後記〉

65回生の皆さん卒業おめでとうございます。この二年間での学びを土台にして、それぞれの進み道で活躍されることを心より願っています。

在校生の皆さん共に看護の強固な土台を築いていきましょう。

